

# 第1分科会：長崎県

## テーマ：「行政と民間・経済界の連携による移住・関係人口の促進」

### 趣 旨

- **移住による人材確保**は官民で連携しながら取り組んでいく課題であり、民間企業の皆様にも「自分ごと」として認識してもらう
- **関係人口の拡大**には、行政による取組はもとより、多様な働き方による民間企業の取組もポイントであることを伝える

### 論 点

- ① 地方へのひとの流れをつくり、東京圏への一極集中を是正するためには、若い世代を中心に地方移住への関心が高まってきている傾向を的確に捉え、新型コロナウイルス感染症を機とした新しい働き方を取り込みながら**地方移住の動きをさらに後押し**することが必要
- ② 併せて、**移住者の定住**に向けては、地域全体で**移住希望者を受け入れるための受け皿作りを推進し、展開**していくことが必要
- ③ 一方で、地方移住の裾野拡大を図っていくためには、九州・山口地域に継続的に多様な形で関わる**関係人口の創出・拡大が重要**
- ④ 移住・関係人口の促進に関して、**行政と民間・経済界・大学の連携**を深め、国の施策を有効に活用しながら、**地域活力づくりに繋げるための課題や方策**について議論

### 座 長

長崎大学 経済学部 准教授 山口 純哉（やまぐち じゅんや）氏

### 事例発表者

- 山梨大学 生命環境学部 教授 田中 敦（たなか あつし）氏
- 一般社団法人 東彼杵ひとこともの公社 代表理事 森 一峻（もり かずたか）氏 等

## 第2分科会：熊本県

### テーマ：「新しいシリコンアイランド九州の創造に向けて」

#### 趣 旨

- 世界的に半導体需要が高まる中、令和3年（2021年）11月に台湾の半導体製造大手T S M Cが熊本への進出を表明したことを契機に、九州圏内における半導体関連企業の更なる集積や関連人材の育成・確保等について、最新の動向等に関する事例発表や意見交換を行う。

#### 論 点

- ①九州圏内における半導体関連企業の更なる集積と経済波及効果の最大化について
- ②半導体人材の現状と課題を踏まえたアプローチについて

#### 座 長

九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会 会長 安田 幸央（やすだ ゆきお） 氏

#### 事例発表者

- 九州経済産業局長 後藤 雄三（ごとう ゆうぞう） 氏
- 財団法人福岡アジア都市研究所理事長、九州大学名誉教授  
安浦 寛人（やすうら ひろと） 氏

# 第3分科会：九州経済同友会

テーマ：「新しい資本主義を考える～九州における成長と分配の好循環の実現に向けて～」

## 趣 旨

- 我が国は経済の長期低迷が続いており、その脱却のためには、**個々の企業が成長と利益拡大を追求し、より成長を重視した経済・産業政策の導入**が求められる。
- 一方で、**貧困問題**が大きな課題として認識されるようになり、今後も知識社会の到来やAI/IoT/DX/ロボティクスの普及により、高度なスキルが伴わないホワイトカラーやショップ店員、生産工程に携わる労働者は着実に減少すると見込まれ、より一層の**格差拡大が懸念**される。
- こうしたなか、岸田政権は、成長と分配の好循環の実現を目指し、新しい資本主義実現会議を設置し、政策パッケージを策定中である。九州においても、**経済活動の低迷と賃金の低迷から脱却**する必要がある。

## 論 点

- ① **経済の長期低迷の要因**は何か。如何にして**経済成長を実現**するか。  
(九州の成長産業・戦略分野、**生産性向上実現（特に中小企業）**、企業の新陳代謝、イノベーション、スタートアップ（大学発ベンチャー）、労働力の流動性 など)
- ② **格差・貧困の実態**はどのようなものか。如何にして改善・解消を図るのか。  
(非正規雇用・フリーランス、労働分配率、人的資本投資、リカレント教育 など)

**九州の産・官・学が  
どう対応すべきか**

## 座 長

九州経済同友会 代表委員 青柳 俊彦（あおやぎ としひこ）氏

## 事例発表者

内閣官房 新しい資本主義実現本部 事務局

## 第4分科会：九州経済連合会

### テーマ：「心の豊かさを成長につなぐ“幸せコミュニティ”の実現に向けて」

#### 趣 旨

- 九経連は昨年5月、経済成長を加速させ好循環モデルを目指す「九州将来ビジョン2030」を公表し3つの  
ありたい姿の軸にSDGs理念の下、新たな価値創出を促す10の課題と35の具体的活動を掲げている。
- また、今年6月、九州に住む人々が幸せを共有し、「九州に住む人って幸せそうだな」と思ってもらえるコ  
ミュニティを育み、豊かな地域社会の実現に向かって進んでいるかを可視化する「幸せコミュニティ指標」を公表した。
- 現状では、九州の人々は主観的な幸福度は高いが、客観的なデータに基づく幸福度は必ずしも高くないことが  
わかっているため、この幸福度のギャップを埋め、上記の**2030年のありたい姿実現**に向け議論する。

#### 論 点

- ①「企業」とそこで働く従業員の幸せ、ひいてはその幸せが従業員一人ひとりに相互作用し、**企業のみにとどまらず  
地域社会にも享受**できる取組み
- ②社会構造に潜むアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）や男女のアンフェアを打開する、**子育て満足  
向上・女性活躍推進**を中心とした「**ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン**」の取組み
- ③「九州に住む人々」が安心・安全に暮らしやすい社会を実現するために防災や感染症対策・交通弱者など**地  
域社会の課題を解決するデジタルを活用した広域での連携**の取組み

#### 座 長

九州経済連合会 理事(ダイバーシティ「幸せコミュニティ」推進委員会 副委員長)池内 比呂子(いけうち ひろこ)氏

#### 事例発表者

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| ○九州経済連合会 専務理事           | 平井 彰 (ひらい あきら) 氏     |
| ○株式会社ハピネスプラネット 代表取締役CEO | 矢野 和男 (やの かずお) 氏     |
| ○九州経済連合会 行財政委員会 企画部会長   | 石丸 修平 (いしまる しゅうへい) 氏 |